

過剰医療の話は凄く頷けた。日々の医療でもこの事をいつも考えている。終末期医療には特に思うところがある。病院で「病気を診断し治療する医師」は、過剰医療の概念を持たれない様に思う。自分がやってみたい医療を提供している様にさえ思う事がある。

ある癌の末期の患者さんの娘さんが「本人が自宅に帰りたいと言っている。私も連れて帰りたい・帰るにはどうしたら良いでしょうか」と、相談に来られた。話を聴くと、母親を病院で亡くした時に、自宅に連れて帰れば良かったと非常に後悔した事があり、父は絶対に自宅に連れて帰り、家で最期を過ごさせたいとかなり強い思いが伺えた。

すぐに病院に行き、医師に話すも医師は「まだ、治療が有る。腎機能が悪いので治療したいんだ。退院の許可は出せない」と言われた。看護師に状況を聴くと、胃がんの末期で既に尿がかなり減ってきている状態で腎機能は悪くなっていると言う。看護師は帰してあげたいと言う。

結果は過剰医療の提供の為に、病院に留め置かれ、自宅に帰る事なく、病院で最期を迎えられた。医師と話した4日後である。すぐに医師が退院を許可してくれていたなら、本人、家族が望んだ自宅で3日は過ごせたのにと悔しくてたまらなかった。

過剰医療を、どこで線引きをするかが難しいとは思いますが、森先生の、医師学生が学ぶ場では学んでいない医療が、実践では提供されている事を聴き、納得したところである。

医療を提供する側にとって都合が良い医療を「過剰医療」と呼ぶのが良い様に思った。

過剰医療は、医療費の無駄使いであるし、金儲けの手段にもされている。

真に医療が分かる人が、もっと仕組みを作る側に居て欲しいと切に願うのである。